

本単元で育む主な情報活用能力

G-STEP 3, H-STEP 4

該当番号の詳細内容は「大阪府情報活用能力ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

身近な生物についての観察や調査を通して、いろいろな生物の共通点や相違点を整理し、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。

（学校図書館等の活用でつきたい力）

- ・さまざまな資料、データから読みとった複数の情報をもとに、自分の考えを構築する。
- ・日本十進分類法（NDC）のしくみを理解して、学校図書館を利用する。

単元における学習の展開（全24時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (6時間)	① 生物の観察と分類のしかた ・身近な生物の観察 スケッチの仕方を学び、学校で見つけた生物のレポートを作成する。☆ ・生物の特徴と分類 さまざまな分類の仕方を学び、レポート作品を分類する。
第2次 (9時間)	② 植物の分類 ・身近な植物の分類 ・果実をつくる花のつくり ・裸子植物と被子植物 ・花を咲かせず種子をつくらぬ植物 ・さまざまな植物の分類
第3次 (9時間)	③ 動物の分類 ・身近な動物の分類 ・セキツイ動物 ・無セキツイ動物 ・動物の分類表の作成 私たちの生活とさまざまな生物 献立の材料について、特徴を調べる。☆（本時） 特徴を調べた、献立の材料を分類する。

本時のねらい

自分たちの食生活に関わる生物の特徴を調べ、観点を持って分類し、読み手に伝わるように表現できる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (8分)	1. 生き物の分類方法の確認 ・前時の分類表を確認し、分類のために調べる項目を確認する。 2. 調べ方の確認 ・前時で作成した情報カードで書いた図書の本を用いて調べる。 ・黒板に例を書き、調べる内容や気を付けることを確認する。	・分類表の完成例を提示しながら、具体的にどのような内容を記述しなくてはならないか確認する。 ・生物カードの作成時に分類ができるように調べるとともに、その生物に関する興味をひく知識も記述するように伝える。
展開 (35分)	3. 生き物カードを作成する ・本を参考にして、生き物を調べ、生き物カードを作成する。	・図鑑などに記載していない情報については、タブレットを併用するように助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">資料から分類に関わる項目を見つけ、記入する。その生き物の特筆すべき特徴を見つけ、まとめて記入する。</div>
まとめ (7分)	4. 紹介 ・良い作品を紹介し、どのような分類の生き物がいたかを確認する。	特徴をあげる中で、どんなことに気が付いたかを考えさせる。身の回りにいる生物がどのように分類できるか考え、生物のもつ特徴に興味関心を持てるように例を示す。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・レポートのモデル（スケッチ、書く内容）を例として黒板に示すことで、何をどのようにまとめたらよいか、明確にした。
- ・他の人の興味を引くような内容にするために、分類に関わる情報に加えて、さまざまな情報を収集して、まとめた。身の回りの生物の特徴に興味をもって、観察できるようになってほしいという願いと、今後の家庭科での分類の学習や食育、環境問題にも関心を広げるきっかけとなると考えて、授業を構成した。
- ・「ランチ給食の献立の生物調べ」として、分類クイズとして廊下に掲示し、文化発表会でも展示予定にしている。
- ・選んだ生物を分類表にあてはめるために、今までの学習の内容を振り返り、自分の理解を問い直す機会となった。



分類に関する特徴や豆知識を図鑑や本から収集して、情報をまとめる。